



FUKUOKA ^{No. 14}

福岡市は、日本とアジアを繋ぐ人・モノ・情報の交流拠点「アジアのゲートウェイ」として発展している。空港・港・駅・コンベンションゾーンなどの都市機能が半径2.5km圏内に集約されたコンパクトシティであるとともに、都市でありながらも自然環境に恵まれており、環境保全にも注力している。



福岡県人口
512万人

福岡市人口
163万人



福岡県GRP
19.9兆円

福岡市GRP
7.8兆円



STRENGTHS

福岡市の強み・特徴



自然との共生を 目指した まちづくり

- 福岡市では、「2040年度 温室効果ガス排出量実質ゼロ」のチャレンジを掲げ、2030年度における温室効果ガス削減目標を50%（2013年度比）とし、様々な取り組みを進めている。
- 市域の3分の1を森林が占めており、森林と都市とがコンパクトに調和し、気候変動対策と生物多様性保全に応える「環境の森づくり」などを推進している。
- 市内中心部や国際会議場でも、自然との共生を目指したまちづくりが進められている。



持続可能な 成長に向けた イノベーションの推進

- 福岡市は市を挙げてスタートアップの創業支援に力を入れており、大都市地域の開業率は1位である。
- 持続可能な経済成長やディーセント・ワーク*を促進させており、カーボンニュートラルに資する製品開発をはじめ、新たな事業展開を行う中小企業を支援するなどのグリーンイノベーションを推進。

* 働きがいのある人間らしい仕事、より具体的には、自由、公平、安全と人間としての尊厳を条件とした、全ての人のための生産的な仕事



国際的な環境非営利団体CDPから、自治体の気候変動対策の評価プログラム「CDP Cities」において最高評価の「シティA リスト」都市に選定(2022年)

代表的な国際会議



- 第36回国際病理アカデミー国際会議 (2026年、3,000名)
- 第27回アジア太平洋リウマチ学会議 (2025年、3,000名)
- G20福岡財務大臣・中央銀行総裁会議(2019年)
- 第16回アジア太平洋地域ITSフォーラム2018 福岡(3,500名)

STRATEGIES

福岡市のサステナビリティに関する戦略・計画

福岡市のSDGs戦略

「第9次福岡市基本計画」・「福岡市地球温暖化対策実行計画」

- 福岡市では、「第9次福岡市基本計画」に基づき、経済的な成長と安全・安心で質の高い暮らしのバランスがとれたコンパクトで持続可能な都市づくりが進められている。
- また、国連ハピタット福岡本部との連携や、アジア太平洋都市サミットなどを通じた国際連携により、上下水道分野や環境分野における福岡市の強みを活かしながら、アジア諸都市におけるSDGsの達成に貢献している。
- 世界や日本が目指すカーボンニュートラルの実現に積極的に貢献するとともに、市民の安全や安心を守り、豊かな自然環境に育まれた生活や文化を未来に継承していくため、福岡市における温暖化対策に関する基本的な考え方を示す第5次となる「福岡市地球温暖化対策実行計画」を2022年8月に策定。

福岡市Well-being&SDGs登録制度

- Well-being(満足度や充実度など)の向上およびSDGsの達成に向けて取り組む事業者を応援する登録制度「福岡市Well-being&SDGs登録制度」を2022年4月に創設。

ゼロカーボンシティ宣言

- 福岡市は、2040年度温室効果ガス排出量実質ゼロを目指し、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを推進。

チャレンジ目標

2040年度：温室効果ガス排出量実質ゼロ*

* 「市域での温室効果ガス排出量」を「市外への貢献による削減量」と「吸収量」を合わせた量が上回っている状態をいう。市域の排出量 ≤ 市外への削減貢献量、吸収量

取り組みの視点

- **ライフスタイル、ビジネススタイルの転換**
(エシカル消費、ESG指標、オンライン化など)
- **将来の世代を見据える**(環境教育、学習の推進など)
- **様々な主体とのパートナーシップ**
(産学官・都市間連携、国際貢献、地域循環共生圏など)
- **新たなイノベーションの積極的な取り組み**
(スタートアップ、技術導入の支援など)

再生可能エネルギーや水素の積極利用

福岡市は、2040年度温室効果ガス排出量実質ゼロに向けた取り組みとして、市有施設での再生可能エネルギーの利用を推進している。この取り組みの一環として、太陽光発電設備の導入・拡大を図るために、初期投資ゼロの第三者所有モデルによる太陽光発電設備導入事業が進められている。また、市民の生活排水である下水から水素を製造し、燃料電池車（FCV）などへ供給する世界初の水素ステーションの運営や、水素で走行する移動式発電・給電システム「Moving e」の導入など、水素の活用を積極的に行っている。

さらに、九州大学には、世界最大級の水素関連研究施設が集積しており、水素社会の実現に向けて産学連携で取り組みが進められている。



移動式発電・給電システム「Moving e」



水素ステーション

Fukuoka Growth Nextをはじめとするスタートアップ支援

福岡市では、ハード・ソフトの両面でスタートアップを支援しており、廃校となった小学校の校舎を活用した官民共働型のスタートアップ支援施設 Fukuoka Growth Nextを整備。独自のハンズオン支援プログラムなどを通じてスタートアップ企業の新たな価値創出を支援することで、地域経済の活性化と雇用創出に寄与している。



スタートアップ支援施設Fukuoka Growth Next

花づくりをはじめとする受入環境の整備

福岡市では、市民や企業との共創によるまちづくりが推進されている。福岡都心部や空港、駅などのゲートウェイにおいて花壇によるおもてなし景観を演出するなど、市民や企業参画型の花づくりを通じて、まちの魅力や価値を高める取り組み『一人一花運動』を行っている。福岡国際会議場やアクロス福岡周辺でも市民・企業・行政が一体となったオール福岡体制で、国際会議やインセンティブ旅行の来場者からの共感を得、また、地域との交流のきっかけとすべく、同プロジェクトに取り組んでいる。



一人一花運動

自然との共生を具現化する国際会議場「アクロス福岡」

福岡市内中心部に位置する国際会議場であるアクロス福岡は、自然との共生、心潤う空間づくりをテーマとして、整備・運営されている。

屋上緑化面積は2階部分から14階部分までで約5,400㎡。1995年当初は全体で76種、37,000本が植栽されたが、その後、補植したり、野鳥などによって運ばれた樹種が増え、現在では200種類程となっている。ヒートアイランド緩和効果もあり、今後もアクロス福岡は、環境にやさしい施設であり続ける。



1995年



現在

旅行者や地域住民にとって利便性の高い モビリティサービスの提供

福岡市は、都市機能が充実したコンパクトなまちとして発展してきた。空港から、国際会議場が立地する都心部まで近く、公共交通ネットワークも充実している。最近では地域の公共交通事業者の連携によるMaaS*の推進や複数の交通モードを組み合わせた訪日客向けデジタルチケット販売など、旅行者や地域住民にとって利便性の高いモビリティサービスの普及が進められている。

博多・天神の近郊観光地である糸島では、地域住民の移動活性化と、観光客の回遊性向上を目的として、公共交通に加えて多様なモビリティ（タクシー・カーシェア・レンタカー・レンタサイクルなど）を利用するマルチモーダルなルート検索や、糸島内施設の魅力発信を進めている。国際会議やインセンティブ旅行における参加者の移動の効率化に向けて、域内移動の更なる充実を目指している。



©西日本鉄道(株)

* Mobility as a Serviceの略で、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済などを一括で行うサービス

アジア太平洋都市サミットをはじめとする SDGs達成に向けた国際連携

福岡市は、1994年からアジア太平洋地域の都市の首長による国際会議「アジア太平洋都市サミット」を開催し、各都市の課題やその解決に向けた取り組みを共有するとともにネットワークの構築を図ってきた。

同サミットや、国連ハビタット福岡本部を通じた国際連携などにより、廃棄物埋立技術である「福岡方式」の海外都市展開を行うなど、構築したネットワークを活かし、アジア太平洋地域の諸都市におけるSDGsの達成に貢献している。



第12回アジア太平洋都市サミット

地域の歴史・伝統に根差したユニークベニューと アトラクション

福岡市では、福岡市美術館、大濠公園能楽堂などの文化施設や、川端商店街などの地域の歴史・文化に触れるユニークベニューを活用できる。

また、福岡CVBは、470年以上の歴史を持つ博多独楽など、福岡ならではの歴史・伝統を有するプログラムを紹介している。加えて、ポストカンファレンスやインセンティブツアー参加者向けにサステナブルな体験コンテンツを多数準備しており、従来のジェンダーに捉われず、自分が試着したい袴や着物を着る「インクルーシブな着物体験」、地産地消の食事を楽しむ「スローフード体験」など多彩なコンテンツが体験可能。



川端商店街

サステナブルツーリズムの推進

福岡市では、観光関連事業者とともに、自然環境や地域の暮らし、そこに根付いた文化に配慮して、環境にやさしい方法で旅行を行う「サステナブルツーリズム」が推進されている。

具体的な取り組みとして、市民や観光客が参加するモデルツアーを実施しており、廃材を活用したものづくり体験、環境に配慮した移動手段、参加者が収穫した食材を使った地産地消のほか、旅行する上で排出されるCO₂排出量に見合った削減活動に投資し、埋め合わせをするという「カーボンオフセット」にも取り組むなど、観光を通じたカーボンニュートラルの実現に取り組んでいる。



電動自転車E-BIKEによる周遊



地産地消の収穫体験